



環境教育

1 環境教育の現況と課題

環境教育は、人間と環境とのかかわりについての正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会の創造に主体的に参画できる人の育成を目指すものです。

今日では、学校・地域・NPO・企業・行政による環境教育の取組が活性化しています。特に、各主体が協働して行う身近な地域の特性を活かした学習が進み、体験型学習や地球規模の視野に立った学習も広がっています。学校では、体験を重視し身近な環境や地域に眼を向ける環境教育が、「総合的な学習の時間」や各教科等で取り組まれています。また、企業においても、環境マネジメントの視点から環境教育に取り組んでいるところもあります。市町村でも、生涯学習講座等で環境教育や指導者育成等を行っており、ボランティア活動・NPO活動等地域の行動へと広がっています。

県では、これら各主体の環境教育・環境学習をさらに進め、「持続可能な社会」を実現していくための施策を展開しています。

2 環境教育に関する県の取組

① 環境情報の提供と相談対応の推進【環境計画課】

■ アジェンダ21 かながわ環境情報相談コーナー（愛称：かながわエコBOX）の活動

県では、環境分野に関する相談、情報提供機能を充実強化するため、平成16年4月20日に横浜駅西口の「かながわ県民センター」3階に、「アジェンダ21かながわ環境情報相談コーナー（愛称：かながわエコBOX）」を設置し、「NPO法人かながわアジェンダ推進センター」と協働して運営しています。

このコーナーは、「新アジェンダ21かながわ」（P104参照）や地球温暖化、環境教育など環境分野全般の相談に対応するとともに、マイアジェンダ登録（P105参照）の普及や、パートナーシップによる取組をコーディネートする窓口としての業務を担っています。また、ホームページを活用した情報提供も行っています。

県民はもとより、企業、NPO、学校などにも気軽に活用していただくことで、「新アジェンダ21かながわ」の「環」が広がり、身近な環境配慮活動が進むことを期待しています。

アジェンダ21かながわ環境情報相談コーナー（愛称：かながわエコBOX）の概要

- (1) 場所：〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター3階
- (2) 電話：045-321-7453（直通）
- (3) E-mail：agendacorner@kccca.jp
- (4) 機能：環境分野の情報提供・相談、普及啓発、情報交換・相互交流機能
- (5) 取り扱い情報：①新アジェンダ21 かながわ全般、②マイアジェンダ登録全般、③地球温暖化防止活動、④環境教育、⑤環境NGO・NPO関係、⑥その他環境分野全般
- (6) 対象者層：県民、企業、NPO、学校、市町村等、県内全域のあらゆる主体を対象としますが、特に、県民、企業、NPOを重点対象としています。
- (7) 運営：県とNPO法人（かながわアジェンダ推進センター）との協働により運営。
- (8) その他：環境に関するイベントや環境活動に対する助成金など、環境に関する様々な情報をホームページから発信します。



「かながわエコBOX」
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f70237/>
「神奈川県地球温暖化防止活動推進センター」
（NPO法人かながわアジェンダ推進センター）
<http://www.kccca.jp/>

2 地域における環境教育の推進【環境計画課】

■ こどもエコクラブへの支援

「こどもエコクラブ」は、子どもたちが主体的に環境学習や環境保全に関する活動を行い、人間と環境のかかわりについて幅広く関心と理解を深めるための経験を積み重ねながら、環境を大切に思う心を育成することを目的に、平成7年6月に環境省の呼びかけでスタートした事業です。

全国の幼児から高校生まで誰でも参加でき、仲間と活動を支える1人以上の大人（サポーター）で構成されています。

各クラブは、メンバーの興味・関心に基づき、自ら活動内容を決めて自主的に行う活動（エコロジカルあくしょん）や自主的に行う活動をより楽しく、豊かなものにするために、全国事務局でデザインした全国のクラブの共通的学习活動（エコロジカルとれーにんぐ）を行っています。

▶表2-10-1 県内クラブ数及び会員数の状況

平成23年度末の登録数
()内は平成22年度末の登録数

市町村名	登録クラブ数	登録人数	サポーター人数
横浜市	20 (23)	815 (922)	104 (112)
川崎市	6 (6)	645 (646)	97 (98)
相模原市	27 (26)	378 (361)	47 (58)
横須賀市	6 (6)	78 (75)	35 (35)
平塚市	0 (1)	0 (17)	0 (1)
鎌倉市	3 (4)	62 (137)	17 (37)
藤沢市	8 (6)	290 (188)	91 (77)
小田原市	6 (7)	32 (40)	10 (11)
茅ヶ崎市	8 (8)	143 (182)	35 (38)
秦野市	4 (3)	57 (56)	13 (12)
厚木市	3 (3)	17 (17)	5 (5)
大和市	4 (4)	73 (73)	13 (13)
伊勢原市	0 (1)	0 (30)	0 (1)
海老名市	4 (4)	174 (170)	7 (7)
南足柄市	1 (1)	3 (3)	2 (2)
綾瀬市	1 (1)	12 (12)	8 (8)
寒川町	2 (2)	8 (8)	2 (2)
箱根町	2 (2)	33 (37)	12 (12)
合計	105 (108)	2,820 (2,974)	498 (529)

■ 環境インターンシップの推進

県では、県内にキャンパスをもつ大学の大学生や大学院生を対象に、環境配慮に取り組む企業における職業体験を通じて、環境保全及び環境問題の解決に必要な意欲及び実践的能力を有する人材を育成する環境インターンシップ事業を行っています。平成23年度は、14大学35名の学生を企業11社に派遣しました。

③ 学校における環境教育の推進【子ども教育支援課、高校教育企画課、高校教育指導課】

■ 各教科等における環境教育の実施

学校教育においては、「総合的な学習の時間」をはじめ、各教科等、学校の教育活動全体を通じてさまざまな角度から環境教育を推進しています。

具体的には、幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において、幼児・児童・生徒の発達の段階に応じ、人々の活動と環境とのかかわりなどについて、体験を交えたさまざまな学習活動を工夫・実践することにより、子どもたちが環境について理解を深め、環境や環境問題に関心をもつとともに、環境を大切に、環境保全に配慮した行動がとれるよう努めています。

とりわけ、「総合的な学習の時間」では、それぞれの地域や学校の特色を生かし、学校周辺の自然観察や環境保全活動、大気や水質の調査、稲作や野菜作りなどの栽培活動、海岸や公園などの美化活動、ビオトープ作りや生物の調査活動などを通して、問題解決的な学習を重視した多様な教育実践を展開しています。

■ 高等学校における特色ある環境教育

県立高校においては、平成22年度から環境教育に先導的に取り組む「環境教育推進校」（9校）を指定しています。指定校では、先進的な環境に係る教育活動を行うための研究や、環境に関する意識を高めるための体験活動や講演会などを行っており、積極的に環境教育への取組を進めています。

環境教育への取組の事例としては、里山の環境保全や森林の維持管理などの実習、ビオトープや太陽光発電を利用した環境学習、「総合的な学習の時間」における「環境」に関する研究等の学習活動などがあげられます。また、生徒会活動や文化祭等の学校行事で、ごみの分別や空き缶・牛乳パックのリサイクルなどの活動に取り組んでいる学校もあります。

全県的な取組としては、各校での環境問題への取組について生徒が発表し、研究討議などを行う「環境シンポジウム」や、環境問題解決に関するレポートを募集し、表彰を行う「エコライフ・コンクール」の開催などを通して、高校生の環境問題に対する意識の高揚を図っています。

▶表2-10-2 環境教育推進校

区分	説明	指定高校名
環境教育推進校	エネルギー・環境問題について、主体的に考え、行動できる資質をはぐくむ環境教育に先導的に取り組むことで、全県または地域内における環境教育の普及、充実に資する拠点校として研究を行います。	県立鶴見高等学校、県立舞岡高等学校、県立横浜栄高等学校、県立川崎高等学校、県立平塚工科高等学校、県立平塚農業高等学校初声分校、県立三浦臨海高等学校、県立海老名高等学校、県立吉田島総合高等学校

④ 環境教育を支援するしくみづくり【環境計画課】

■ 新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業

県では、地球温暖化対策の一環として、学校教育を通じ地域社会での新エネルギー・省エネルギーの普及啓発、導入促進を図るため、新エネルギー・省エネルギーに関して豊富な知識・経験を有する県内の団体等のみなさんに、小・中学校、高校等で実験等を活用した体験型の授業を実施していただく「新エネルギー・省エネルギー学校派遣事業」を実施しています。

平成23年度は、55校の小・中学校、高校等で体験型の授業を実施しました。

コラム 横須賀市立明浜小学校

明浜小学校では、清掃時間の充実、学校周辺のゴミ拾い、花壇の整備などを通して、児童の環境美化意識を高めています。

(1) 児童の活動

平成20年度から児童会の保健委員会の取組として、創立50周年にちなんで、毎月「5」と「0」のつく日に「ごみ0運動」を実施しています。「クラスで1日50個のゴミを拾おう」という目標を立て、教室や廊下、校庭のゴミを拾っています。

また、第一・第三水曜日の朝には、保健委員会が学校周辺のゴミ拾いを行い、福祉委員会も今年から、学校から駅までの通学路のゴミ拾いを始めました。それらの清掃活動の様子は、全校児童の意識を高めるためにビデオに収め、全校集会やPTA保健委員会で発表しています。



(2) 地域の方の協力

地域でも学校の環境美化に関する意識が高まり、PTAの方が園芸委員会と協力して学校の花壇に植物の苗を植えています。学校は花や緑に囲まれ、訪れた方の憩いの場にもなっています。

コラム 小田原市立鴨宮中学校

鴨宮中学校では、環境教育の取組として、アルミ缶やペットボトルキャップの回収週間を毎月設定し、生徒会が中心となって活動しています。

(1) 活動のきっかけ

アルミ缶の回収は20年前に特別支援学級の活動の一環として始まり、生徒会から全校生徒に呼びかけるようになりました。また、新たにペットボトルキャップの回収を3年前から始めました。

(2) 環境教育への取組を通して

アルミ缶は業者に引き取っていただき、換金されたお金は民際センターでの募金に、また、ペットボトルキャップはエコキャップ推進協会へ送付し、発展途上国のワクチン代に使用されています。校門付近に設置したアルミ缶回収ボックスに地域の方が直接入れていただくことも多く、中学校の活動が地域の方々に広く定着しています。これらの活動を通して、資源の再利用についても考えています。



コラム 環境シンポジウム

高校生の環境意識を高め、環境保全やよりよい環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育成することや、各学校における環境教育を実践・推進する指導者の育成を図ることを目的として開催しています。

平成23年度「第6回環境シンポジウム」（平成24年3月20日開催 会場 国際言語文化アカデミア研修ホール）

○高校生のエコライフ・コンクール、かながわハイスクール節電コンテストの表彰

最優秀賞を受賞した湘南白百合学園高校、座間高校の生徒による受賞作品の発表を行いました。

○環境教育の取組について（分科会）

環境教育推進校等における環境教育の取組についての生徒による発表・研究協議を行いました。

○その他

東京都市大学佐藤真久准教授による基調講演、海老名高校生徒による「高校生による環境宣言」等を行いました。

